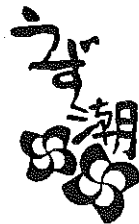


(第3種郵便物認可)

ボストンへ行った。前日のニューヨークは雨だったが、この日はよく晴れた春の陽気が街を覆っていた。例年と比べても、3月中旬にしては暖かいという。

ニューヨークから行くと、まずボストン南駅に着く。南駅近くにあるボストン日本総領事館に旧知を訪ね館の階上にある眺めの良いレストランで昼食をとる。眼下にローガン空港、その向こうには大西洋が一望できる。ローガン空港は2000年9月11日に2機の飛行機が飛び立った空港だ。今は静かに飛行機が発着する。あくまで穏やかだ。食事の後、南駅周辺からボストン・コモンズまで歩き、地下鉄に乗る。地下鉄といっても、路面電車のような地下鉄。少し中心部を



やまもと たろう
山本 太郎

ボストン紀行(1)

離れると、事実、この地下鉄は路面電車となり、郊外に至ると、森を抜ける電車となる。
この日は、グリーン・ラインと

呼ばれる路線でクリーリッジ・コーナーに向かい、そこから徒歩でハーバード大医学部がある辺りまで、ロングウッド通りを歩く。新緑が芽吹くには少し早い、小鳥のさえずりは耳に心地よい。

この通りは、今から8年ほど前、ボストンに暮らしていたころ、よく歩いた道だ。一つ一つのビルや家、商店に当時の記憶がよみがえる。あのころ、どんなことを考え

そしてよく学んだあのころだった。そして、そんな時代は二度と来ないのかもしれないと思うと言いやうもない寂しさに包まれる。少し感傷的になり過ぎだということとは自分でも分かっていた。

8年前にボストンを去る時に書いた言葉に次のようなものがあった。この10年間に、東京ー長崎ーアフリカー京都ーボストンと4回の引越をした。今5回目の引越しを終えようとしている。10年間で大きく変わったことといえは、旅立ちの先にある希望より、それまでの暮らしに対する愛(とおしさが募るようになってきたことかもしれない)。研究のためハイチへ向かったのはその後だった。
(長崎大熱帯医学研究所教授)